

「With コロナ時代における未来アイデア」応募用紙

○応募者

氏名・法人名・団体名	
(法人・団体の場合)	
メールアドレス	
電話番号	

募集対象・応募資格適合への同意	<input type="checkbox"/> < 同意します
暴力団関係者（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）に規定する暴力団をいう。）	<input type="checkbox"/> < 該当しません

○応募内容

アイデア名	イベント前日検査式・交通系 IC カードと連携させたコロナ検査システム
-------	-------------------------------------

提案の概要（200字以内）
まず現在5人で運用している検査を、100人検査可能なプール式PCR検査を開発する。イベント前日又は直前の電車利用時に唾液付き綿棒の検体を提出し、利用者がイベント会場に着く前に唾液によるプール式PCR検査によって判定結果を交通系ICカード・データに入力する。イベント会場入り口に端末装置を設置して、コロナ陰性判定者のみを会場に入れる。検査後に感染するリスクは残るが、各自に検査後の感染予防実施を条件にシステムを運用する。

提案のきっかけ ※様式自由
コロナによる非常事態宣言等により、社会活動が大幅に制限され、産業界が危機に直面し、会社や学校、イベント等が異常な状態に置かれている。それらを限定的ではあるが、正常な状態に戻すために実用可能な方策を提案する。

提案の狙い（実施することで解決される社会的課題または創出される価値） ※様式自由
<p>(本システムの効果)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 野球場等のイベント会場の他に飲食店やスポーツジム、カラオケ店、屋台船等の3密店の入り口に端末装置を設置して陰性確認者のみを入場させることで、感染対策無しで収容人数満席状態での営業や運営を可能にする。 2) 交通系ICカードに検査日と翌日だけ有効なPCR検査陰性のマークを付与し、街の3密施設、飲食店、カラオケの店頭等に端末装置を設置して陰性判定客のみを入店させる。店内での密接行動を許可し、コロナ対応設備や殺菌作業も不要となる。回転寿司店の移動中の鮎に、客の会話や咳で菌が付着する危険性やトイレでの接触感染も無くなる。 3) 全員が陰性者であれば、飲み会やスポーツ練習、法事、祝賀会、研修会、各種集会等を3密状態でも実施可能。 4) 新幹線の改札入場を陰性者マークの付いた交通系ICカードの乗客に限定することで、新幹線の車内

やホーム内食堂、トイレ等を安全地帯にすることも可能。

- 5) 大学の下校時に全員が検体を提出して翌日までに PCR 検査で全員が陰性判定者として登校し、リモート講義ではなく、教室での教師と学生との密接な教育や密接な部活動が可能となる。小、中、高校も同様。
- 6) 会社の退社時に全員が検体を提出して翌日までに PCR 検査で全員が陰性判定者として出社できれば、リモート出勤ではなく、会社の事務所や作業現場にて社員どうしが 3 密状態で協力しながら業務を遂行し、退社後に陰性者専用の店で飲み会をして帰宅することができる。

実現可能性や実現に必要な要素等 ※様式自由

現在 5 人で運用している検査を、100 人検査可能なプール式 PCR 検査を開発する。刃を改造したミキサーによる攪拌や唾液付き綿棒の頭を検査液に混ぜて攪拌した後に、綿棒を圧縮し、除去。残った検査液を霧状ミストにして噴射して回収する等のコロナ菌の拡散処理を実施すれば、100 人検査の可能性は有ると考えられる。

提案の詳細 ※様式自由

(概要)・・・イベントの前日に陰性を確認して交通系 IC カードに登録。

まず現在 5 人で運用している検査を、100 人検査可能なプール式 PCR 検査を開発する。イベント前日又は直前の電車利用時に唾液付き綿棒の検体を提出し、利用者がイベント会場に着く前に唾液によるプール式 PCR 検査によって判定結果を交通系 IC カード・データに入力する。イベント会場入り口に端末装置を設置して、コロナ陰性判定者のみを会場に入れる。検査後に感染するリスクは残るが、各自に検査後の感染予防実施を条件にシステムを運用する。

陰性確認者の交通系 IC カードに検査日と翌日だけ有効な PCR 検査済マークを付与し、イベント会場の他に飲食店やスポーツジム、カラオケ店、屋台船等の 3 密店の入り口に端末装置を設置して陰性確認者のみを入場させることで、感染対策無しでの営業や運営を可能にする。

(システムの実現手段)

1) 各自が事前に駅やコンビニにて、識別番号と番号のバーコードを印刷した小さな 2 ポケット型ポリ袋数十枚(同じ番号)を購入し、スマホやパソコンによって袋の番号を検査専用サイトから入力して自分の交通系 IC カードに登録しておく。または、コンビニがその袋を販売する際にバーコードを読み取り、購入者の交通系 IC カードに登録する方法も実施する。

2) イベントの前日、または当日に、唾液付き綿棒を 2 本、所定の小さな 2 ポケット型ポリ袋に入れて持参し、駅の改札やコンビニ等に設置した検体回収袋に投函すると共に、設置されている端末装置にタッチして検体を提出したことを交通系 IC カード・データに登録する。

3. 専属の回収員が定期的に検体回収袋を回収して検査所に持ち込む。

検査所では、前半検査にて一方の検体の綿棒の頭だけを切り取り、検査液を入れた容器に 100 人程の綿棒の頭を一緒にいれて攪拌し、開発する特殊な方法で検査液全体に唾液を分布させた後、1 回の PCR 検査によって 100 人の陰性を判定する。大部分の 100 人グループは陰性として判定されるはずであり、1000 人の検査も 10 回の検査で陰性判定が成される。まれに陽性判定されたグループの、残された 100 人の他方の検体が後半検査される。検査液を入れた容器に 10 人程の綿棒の頭を一緒にいれて攪拌し、検査液全体に唾液を分布させた後、プール式 PCR 検査によって 10 人程の陽性可能者を特定する。この検査を 10 回行うことで 100 人の検査を行う。陽性判定された 10 人のポリ袋に印刷されたバーコードを読み取り、識別番号で検索して該当する番号の交通系 IC カードに陽性可能者データを登録する。その他の検体提出者の交通系 IC カード・データは自動的に陰性判定者としてマークされ、マークは検査当日の翌日後に消去される。

駅の改札窓口に綿棒を用意しておき、駅やコンビニで検体を作成して提出し、端末機で提出を登録することも可能にする。通勤や通学の帰りに翌日のイベントのために準備できる。

3) 希望者は前日に検体を提出して一人ずつの無料 PCR 検査を受け、交通系 IC カード・データに陰性者マークを付与しておくことも可能。

4) 学校の下校時や会社の退社時に検体を提出し、学校や会社独自で PCR 検査するか、検査所へ回収袋を持参して検査する方法も可能。

※ 各記入欄は適宜拡幅して構いません。

※ 様式自由となっている項目は、別ファイル（ワード又は PDF 形式）で提出していただいても構いません。

※ その他、任意の参考資料も提出いただけます。

※ 応募いただいた時点で、上記内容（氏名、メールアドレス及び電話番号を除く応募用紙に記載されたすべての内容）の取扱いを県に一任するものとし、県が上記内容を第三者へ情報提供することに同意したものとします。